

平成24年11月29日

NO. 45

東濃西部少年センター

多治見市豊岡町1-55

TEL 23-3455

FAX 26-8813

センターだより

平成24年度 岐阜県優良少年指導員表彰

受賞おめでとうございます

平成24年11月11日(日)、郡上市美並町 日本まん真ん中センターで開催された岐阜県青少年健全育成県民大会において、多年にわたり青少年の指導活動に尽力された方々が、岐阜県環境生活部長及び青少年育成県民会議会長より表彰されました。

東濃西部少年センターからは、下記の5名の方々が、その榮譽に浴されました。これまでの10年及び5年という年月、少年指導員としての献身的な取組みに対して、心より敬意を表します。受賞、誠におめでとうございます。

これからも引き続き青少年の健全育成と非行防止に格別のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

表彰された方々

岐阜県環境生活部長表彰 (10年以上在任)

津田 宏 様 (多治見地区指導部)

成田 静子 様 (同 上)

青少年育成県民会議会長表彰 (5年以上在任)

小倉 昌春 様 (多治見地区指導部)

佐光 雅哉 様 (同 上)

水野 雅仁 様 (土岐地区指導部)

3 地区合同研修会を振り返って

今年の研修会は8月26日(日)に土岐市の「セラトピア土岐」で開催しました。昨年に続き今回も、若者と大人がもっとお互いをよく知り合い・お互いを認め合うことができれば、これからの街頭指導に必ず役立つと考え、前半の全体会では高校の校長先生から講演を、後半の分散会では「高校生との意見交流」を研修のメインとしました。

こうした研修の方法も徐々に定着してきましたが、高校生の38名という参加(中京高29名・土岐商高9名)に対して、指導員の58名(多治見35名・瑞浪5名・土岐18名)は、全指導員200名の29%に過ぎず、この低い参加率については、今後の課題としなければなりません。

しかし、参加した指導員の感想はとても好評(アンケート結果は7ページ参照)で、昨年以上に充実した研修であったと思います。

さて、研修の前半では、日頃から多くの高校生と関わってみえる、県立土岐商業の臼井孝昭先生と中京高の林勇人先生から、学校経営や最近の生徒像など、若者への熱い想いを語っていただきました。(挨拶・講演内容は3?6ページ参照)

また、後半の分散会の意見交流では、高校生と指導員あわせて約10名ずつ9班に分かれ、お互いの考え方や接し方をテーマに、話し合いを深めました。

以下、意見交流での高校生の素直な感想の一部を、アンケートから紹介します。なお、指導員の感想は7ページをご覧ください。

「意見交流」から 高校生の感想

- ・このような場で意見を述べるのは、初めてだったから、緊張したけれどよい勉強になった。
- ・タイミングを伺っていたら時間が無くなって、発言のチャンスを逃してしまった。もっと強引にいくべきだった。
- ・親以外の大人の話聞いて、あらためて親の言い分に同意できることができた。
- ・世代の異なる大人たちが、これからの自分たちについて真剣に意見を言ってくれて、うれしかったし、とてもためになった。
- ・やはり人生経験のある大人から、一言二言アドバイスをもらえると、ちょっとだけ解決した気がした。
- ・自分たちには普段あたりまえと思っていたことが、他の世代の方には、通用しないことが分かった。こういう場で意見を交わすことが大切だと思う。
- ・たくさんの人のおかげで、自分たちの生活がなりたっていることが分かった。今日のこの会で知ったことを、これからの生活に活かしていきたい。

研修会の来賓挨拶のなかで

土岐商業高等学校 校長 臼井 孝昭先生

皆さん、おはようございます。ただ今ご紹介にあずかりました土岐商業高校の臼井と申します。よろしく願いいたします。昨年度もこの会でご挨拶させていただきました。先程の所長さんのお話じゃないですが、ちょっとショッキングなことを申し上げたような記憶があります。

岐阜県の高校生徒の総数は現在、58,260名で、多治見地区の生徒数は6,660名です。この中に皆様方にお世話になっている生徒がいる訳ですが、皆様方に声を掛けて頂いてちょっと道を外れかかったかなというところを、ちょいちょい引っ張っていただいている、そういう経験をした高校生も何人かはいると思います。

今年、「センターだより」にいいことが書いてありました。東濃フロンティア高校の砂場道明校長先生が書かれた「失敗が失敗のもとになってしまう若者たち」という文章で、今月のNo. 44号に掲載されています。私も表現は違いますけれど、以前〈不幸を選択していく子ども達がたくさんいる〉ということをお話したことがありました。生徒指導をやっていると、「こんな選択をしたら不幸になるのは分かっているじゃないか。」と思われる選択をしていく子ども達が結構いることに頭を痛めます。それを止める手立てはないのかということ、いつも考えるのですが、子ども達はその不幸を選択していく時に、後押しをしているのが親御さんだったりすることがあります。親御さんがよく分かっておられない。そういう場面に出会うことが良くあります。

ここに集ってきてくれている生徒たちは、決してそのような選択をする子たちではないと思います。中京高校の生徒さんは部活動に、土岐商の生徒は生徒会活動・MSリーダーズに参加してくれている子たちです。どちらかというところから縁遠い、正しい選択をしてくれている子たちだと思っています。



素手を広げた、
校門前の冬木立
青空に
来る年思う12月

土岐商通学路

今日の会では、高校生の考えていること、現在の高校生の文化を理解して頂けたらいいなと思っております。

「高校生の諸君にお聞きします。現在スマホを持っている人は手を上げてください。」

(挙手)

「意外と少ないですね。もう少し高い率かなと思っていたのですが、では指導員の皆さんでスマホを持っている方はいかがでしょう。手を上げてください。」

(挙手)

「あっ、圧倒的に少ないですね。私もおじさんの域にいますが、一応はもっています。高校生の使い方はそればかりではないようですね。ブログの設定や自分でプロフィールサイトを持っている子とか結構いるのですね。高校生の諸君、自分のプロフサイトを持っている人は手を上げてみてください。」

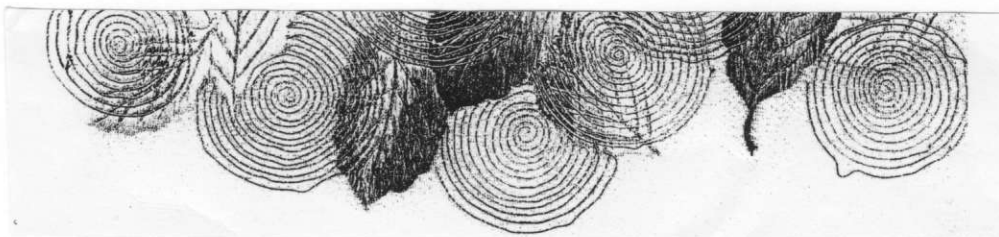
(挙手)

「生徒会長、持っていますか。やっぱりいるのですね。」

彼女は違うと思いますが、プロフィールサイト、これが結構いろんな「いじめ」の温床になっています。それからいろんな連絡に使う。売り、買いに使われる。情報収集に使われる。携帯をどのように使っていくかという知識は大人には全くない。ほとんどとってない。携帯の利用の仕方、関わり方を、今日の機会に少し学んでいただくと良いと思います。持っていない人は、友達がどう使っているかということ伝えることができると思います。高校生が携帯をどう使っているかを知る良い機会だと思います。

私たちが駅前の啓発活動に参加させていただくことがあります。7月でしたが、ある学校の生徒に土岐市駅前で声かけをしました。そしたら「俺これから学校辞めに行くんや。これから先公と会って話してくるんや。俺の人生もこれで終わりやで。」なんて言いながら去っていきました。そんな姿を見ると、自分を何とか理解してくれる人を一人でもいいから探したいということがあられると思うのです。

「自分は今こういう状況になっているんだ。おじさん、理解してよ。」そういう気持ちが伝わってきました。その子に再び会った時、声をかけてくれたおじさんに対して、「おじさん、いま俺こんなことやっているんだ。」と言ってくれる関係を持つだけで、その子にとっては救いだと思います。皆様方の活動がそういう面で多くの大きな影響を与えていることがあると思います。是非、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。



研修会の講演記録から

安達学園中京高等学校 校長 林 勇人 先生

中京高校はご承知のように岐阜県で一番大きな高校です。全校生徒は現在、1,315名おり、科は普通科と商業科に分かれています。私学ですから、一番大事にしていることは『学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ』という建学の精神です。簡単にいうと、学術とスポーツを通じて真剣味のある人を育てる、そういう学校を作りたいという創立者の想いが込められています。文武両道において、勉強、スポーツを通じて真剣味（この言葉が難しい訳ですが）、何事にも真剣に取り組んで、その中から様々な生きる力を身に付けていく、そういう人間を育てる学校を作りたい。これが本校の最大の目的であり、中京高校がこの世の中に存在する価値だと思っています。私どもはこの建学の精神に基づいて、すべての教育活動を行っています。

その下に4つの分かり易い教育目標を立てています。これは私が校長になった6年前に、カリキュラム刷新ということで、もう一度「真剣味」という言葉を使いやすく現代風に、もっと生徒たちの身近なものとして考えていこうということで、具体的な4つの教育目標に落とし込みました。

一つ目が「自分を見つめる心」、これは簡単にいうと、とにかく何か物事が起こった時に、他人のせいにしてがちですが、まず自分の心にしっかりと聞く、自分自身としっかりと向き合える人間、そういう気持ちを持つようにというのが「自分を見つめる心」です。真剣味という言葉に置き換えると、真剣が刀だとして、この真剣は相手に剣が向いているのではなくて、自分の中にある弱い心に剣が向いている。絶えずそういう気持ちで物事に取り組みなさい。他人のせいにははいけません。まず自分の心に問いかけるというのが、この教育目標の一つ目の「自分を見つめる心」を作ろうということなのです。

二つ目は、自分を見つめるといっても一人では見つめられません。人間生きていく中で、いろいろな人と関わりを持ちながら生きていくということで、「つながろうとする気持ち」を持つということです。コミュニケーション力です。しっかりとコミュニケーション力を育成できる、そういう教育をしようというのが二つ目です。

三つ目が、一つの物事に真剣に取り組んで、最後まであきらめることなくやりきろうという「あきらめない姿勢」です。

四つ目が、「強健な心身」です。中京高校はどちらかというとたくましい、力強い遺伝子が50年の伝統の中で培われてきました。それも含めてこれを四つ目の教育目標にしました。

この四つの教育目標は、「真剣味」をかみ砕いたもので、これにしたがってカリキュラムを刷新したのが6年前です。更にその時、学校の教育改革ということで5年計画を作りました。その中で、建学の精神に基づいて、どういう学校を目指すのかということで、三つの学校像を打ち立てました。

1. 建学の精神に基づき人間教育を大切にしている学校

これがすべての土台です。コース、クラス、クラブの違いにとらわれず、本校は建学の精神に基づき人間教育を大切にしている学校であるということです。人間教育というのは、かみ砕いていうと、コミュニケーション力を大切にしている学校と置き換えていただいても構いません。その土台の上に5つのコースがあります。これが更に細かなクラスに分かれております。これが

2. 多様な環境の中で無限の可能性を大切にしている学校

3. 生徒・教職員が生き生きとしていて誇りが持てる学校

という学校像です。

一つ目の土台になる部分ですが、先ほど申し上げたようにコミュニケーション力が全ての土台です。それを更に細かくいうと、「挨拶」「傾聴」「服装」「時間」「清掃」の五つですが、頭にある三つを特に大切にしています。

一つ目が「挨拶」です。具体的に申しますと、「声を出して相手の目を見てしっかりと挨拶する。」ということを学校全体で大切にしています。

二つ目に「傾聴」です。これも「話している人の顔を見て、腰を立てて、しっかりと人の話を聞く。」ということを大切にしています。

三つ目は、時と場合に合った美しい身だしなみ、「服装」ということを大切にしています。

四つ目に、「時間」厳守、時間を守るということを大切にしています。

最後が「清掃」活動、これを大切にしています。

たくさんの課題もございます。コミュニケーション力が取れずになかなか教室に入れない生徒がいます。保健室や教育相談室しか入れない生徒です。人と触れ合うことに恐怖感を感じて輪の中に入れない子もたくさんいます。学校に登校できない生徒もいます。そんな中で私自身が大切だと思いい、いつも教職員に言っていることは、まず愛情を持って生徒に接してほしいということです。愛情を持って指導にあたれば、声かけの言葉が違ってきます。またその響きも違ってきます。それが一番大切だと言っています。

二つ目に、生徒にはいろんなバックグラウンドがあります。当然家庭があります。保護者の方がいます。たとえば、その子がそういう言葉を発する、そういう行動に出る、非行に走る、目立った格好をする、その後ろには大きな背景があるということに、絶えず思いを馳せながら指導に当たってほしいと言っております。

指導の原点として、まず話を聞くことから始めることが、大切だと思います。しかしながら、いつ答えが出るのかは判りません。例えば今、先生が叱っても、今は判らないかも知れない。けれども、二十歳になって判るかも知れない。三十歳かも知れない。それでいいじゃないかとも思います。今、早急に答えを出そうとすればするほど、生徒の心に届かない部分ができてしまうかも知れません。相手の話をしっかりと聞く姿勢を持っていただき、いつ答えが出てもいいのだと、少し心に余裕を持って、子ども達に接していただけるとありがたいと思います。

いろいろ申し上げましたが、子ども達は決して特別ではありません。怪物でもお化けでもなく、昔の子どもも今の子どもも変わりはないと思います。中に入っているいろんな話を聞きますと、素直で明るくて純粋でいい子達ばかりだと思っております。まず受け入れていただいて、その上で言葉を掛けていただきながら、より良いコミュニケーションを取っていただき、指導に当たっていただければ、ありがたいなと思います。

「挨拶・講演・意見交流」から 指導員の感想

- ・現在の高校生に毎日接してみえる先生方のお話を聞くことで、学校がどのように生徒たちを導いているかがよく分かりました。
- ・まずは相手の話に『耳を傾ける』ということ、大切にしている教育方針を凄いなと思いました。
- ・『挑戦』ということ、を良く指導されているのが、この意見交流に参加している生徒さんと接して、理解できました。
- ・先生方は、話上手です。中3の娘がいる私は、親として先生方の学校に行かせたいと思ってしまいました。
- ・私たちのグループには、中京生が3人いました。校長先生の信念が、深く浸透しているのだと強く感じました。
- ・先生の子どもに対する愛情や期待を、強く感じました。中京高校に対する見方を変えることができたことを、うれしく思います。
- ・子どもを長い目で見ていく。教育効果は、すぐにでなくても、後で必ず出ると信じて見える、その思いに感心しました。
- ・自分の子どもも高校ですが、こうした機会に他の高校生と話し合うことで、若者全体への見方をあらためて勉強できました。
- ・先のことまで、これだけしっかりとした考えを持っている子どもたちがいるとは、本当に嬉しいことです。
- ・若い力を感じ、今後に期待したいです。
- ・今後もこうした機会を続けてほしい。繰り返し継続することが大切だと思います。
- ・前向きな高校生の考え方や、部活を通して人とのかかわり方を学ぼうとしている姿を目の当たりにして、彼等にエールを贈りたいです。

指導員アンケート結果 (3地区合計)

	講演は	意見交流は	高校生参加は
大変良かった	40	39	50
何ともいえない	10	9	1
良くなかった	0	2	1
回答なし	8	8	8
合計	58	58	58

参加者の感想やアンケート結果から

今回の研修を振り返ってみると、校長先生方のお話や分散会での意見交流は、概ね良好との評価をいただけたと思います。しかし、高校生のアンケート結果をよく見ると、全体の参加者38名中「発言できた」の28名は、感想(2ページ)でもわかるように、そのほとんどが「勉強になった・今後に活かしたい・うれしかったetc」の前向きな受け止め方をしています。

ところが「発言できなかった」の9名(全体の1/4)は、約1時間半の分散会で、同席はしたものの、積極的な参加にならなかった。これはセンターの大きな反省です。

今後は、話し合いのカギにもなる、司会者との事前の打ち合わせ(今回は当日、会の直前にあわただしく)をもっと深めることが必要であると感じています。

また、高校生に対しても、もっと早い段階で、話し合いに臨める(今回は当日、受付で簡単なちらしを配布)働きかけが必要と考えています。

一方、一部の指導員からは、「大人の高校生に対する説教の場になっている。これでは駄目だ。」との意見がありました。

この点は、当日の「大人の皆さんへ」のちらしで、上から目線での押しつけ(説教の押し売り)にならぬようお願いしたことです。

大人の指導員が「高校生に何かを指導する・教える・注文をつける」というスタンスは払拭し、「共に学ぶ・(彼等から)何かを得る」という謙虚さが、まさに求められています。

また、「優秀な生徒ばかりの参加でしたから、指導する・助言をすることができなかった。」の意見に対して、今回参加してくれた中京高・土岐商高38名の高校生は、特に優秀な生徒を選んでいるわけではありません。ごく普通のどこでも目にする高校生です。発言内容が真当すぎるから優秀などと思わないでいただきたい。

大事なことは、今の高校生なら、普通に持っている当たり前の考え、ということです。関連して「指導できる。助言をする。」などと構えることが、上から目線になっていることを、自覚していただきたいと思います。

私たちは、今回の意見交流で、「これ!」というまとめらしき事を期待し、求めている訳ではありません。こうした機会に、世代の異なる彼らと言葉を交わし、少しでも分かり合えればお互いの距離がぐっと縮まり、今回の目的は果たせたと言えます。

研修に参加していただいた指導員の皆様には、心から敬意を表します。

